

7月11日(月)定例会

参加人員 12名

作業内容

芝生広場、遊歩道草刈り。苗圃場、アジサイ植え込み手取り除草 及び 敷き草敷き。

栗園下草刈り。

観察

定植1年目・2年目・3年目・4年目の全樹旺盛に生育中。

ムクゲ株移動2年目となり、これまでになく見事に開花。

ヒトツバタゴ4月2日接木苗、

キンモクセイ台木苗枯死、台木より新芽萌芽開始。

育種研究所産台木に生大穂木接木苗、5本接木、約30cm生育。

ヒトツバタゴ苗

対馬鰐浦産原木、5月11日5本植え付け、5本活着生育開始。

育種研究所産苗木、6月1日約20本植え付け、全部活着。

塚のヤマカキ接ぎ木

昨年アイツミシラズ 及び 太秋 生育順調。

感想

梅雨最中、芝生広場のメイシバ(ハグサ)の生育は驚異的に伸び、この地球の地表を被覆する。この生命力、増殖力に畏敬の念を抱き、宇宙の輪廻を感じた。生きとして生きるもの森羅万象、生きる喜びを謳歌している。

話題

亀を発見。小川さんが下草刈り中、土亀を発見、土亀が草むらに産卵をしていた。亀は吉兆。祝い亀である。

7月16日(土)定例会・ムクゲまつり

参加人員 正会員20名 賛助会員5名・一般会員8名(神崎町町長他)
計33名

1. 作業内容

栗林下草刈り、刈りとった草を苗圃場、アジサイ植え込みに敷き草。

オオシマサクラ実生苗下枝剪定（地表20cm以下の枝）
接ぎ木（16年度）1年苗の誘引結束。

2, ムクゲまつり式典（11:20ごろ開始）

司会進行 事務局長 土屋好美
開会のことば 副会長 紺野忠靖
会長あいさつ 会長 尾形英司
花束贈呈 副知事再任祝い
来賓あいさつ

副知事 大槻幸一郎氏

86日間の浪人生活。（長野に山入り・四国八十八ヶ寺巡礼）
再就任里山初仕事。ヒトツバタゴにも挑戦をされたい。ムクゲが大変綺麗です。

神崎町長石橋 輝一氏

大槻副知事再任おめでとうございます。近々神崎町は県下最小の町となる。小さいなりに町づくりを考えて実現する。ヒトツバタゴの栽植で町おこしを図りたい。

NPO 成田・里山を大槻副知事再任を里山づくり組織の人々は大変歓迎します。

育てる会理事長

成田の里山を育てる会から分家（新宅）の「成田さくらの里」
高仲 洋 が盛会になることをこの地域の里山づくりが活発になり有り
難い事です。互いに頑張りましょう。

3, 運動報告

平成17年4月25日総会以降の活動報告。定例会 6回 延べ74名参加。
桜の下草刈り、苗づくり、新たにヒトツバタゴの苗づくりを導入。

ハリギリ・ヤマウドの酢みそでの野趣満喫。マムシ・カメの発見。エゴノキの花、ウワミズサクラ（上溝桜）の結実。アジサイ・ムクゲの見事な開花。

豎穴式茅葺き丸太小屋の芝棟は、ジャマンアイリスが活着し、ヘロカリスの花が咲き、5月22日、朝日新聞のフランスの片田舎の芝棟奇想遺産に匹敵するできばえである。

森林セラピー効果の満喫満点の「成田さくらの里」です。

4, 今後の活動

アズマネザサ（篠竹）撲滅作戦。丸太小屋の仕上げ。縄文の味覚（栗）拾

い。ヒトツバタゴの採種・芽接ぎ実験。河津桜芽接ぎ。

ちば里山センター加入申込み中。

観察

純白のムクゲの花が今年もたくさん咲き我が世を謳歌しているようです。

栗林の70～80cmに生育したセイダカアワダチソウがみるみる刈り取られ栗林の視界が広々とした。自分の巣を見失った、コジツケかウズラか刈り取られた草の上を巣を探してウロウロしている。自然生態系を乱したようで申し訳ありませんでした。

感想

里山で汗を流した後の豚汁を特に美味しいとの評価でした。

話題

ヒトツバタゴの苗木づくり、4月2日、切り接ぎの30cm程に伸びた5本の新枝とモクセイの台木からの新芽萌芽に皆さんが驚きと生命力を感じた。